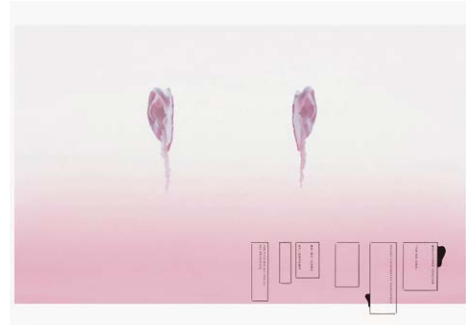


「伝聞・グラフィックデザイナーの CMYK」

デザイン学科 照沼太佳子 Takako Terunuma



福島 治・山の手事情社「傾城反魂香」



廣村正彰・LOFT ショップバッグ

グラフィックデザイナーの色へのアプローチは、個人のデザイン思想や美学はもとより、世代（＝印刷やデザイン制作環境の技術の変化）や、得意とする分野（例えば広告やロゴやパッケージ、ブックデザインなど）によっても異なります。しかしビジュアルコミュニケーション、「その色は人々にどう映るのだろう、どう影響するのだろう」という観点を最も重視する姿勢は、全てのデザイナーに共通するものです。

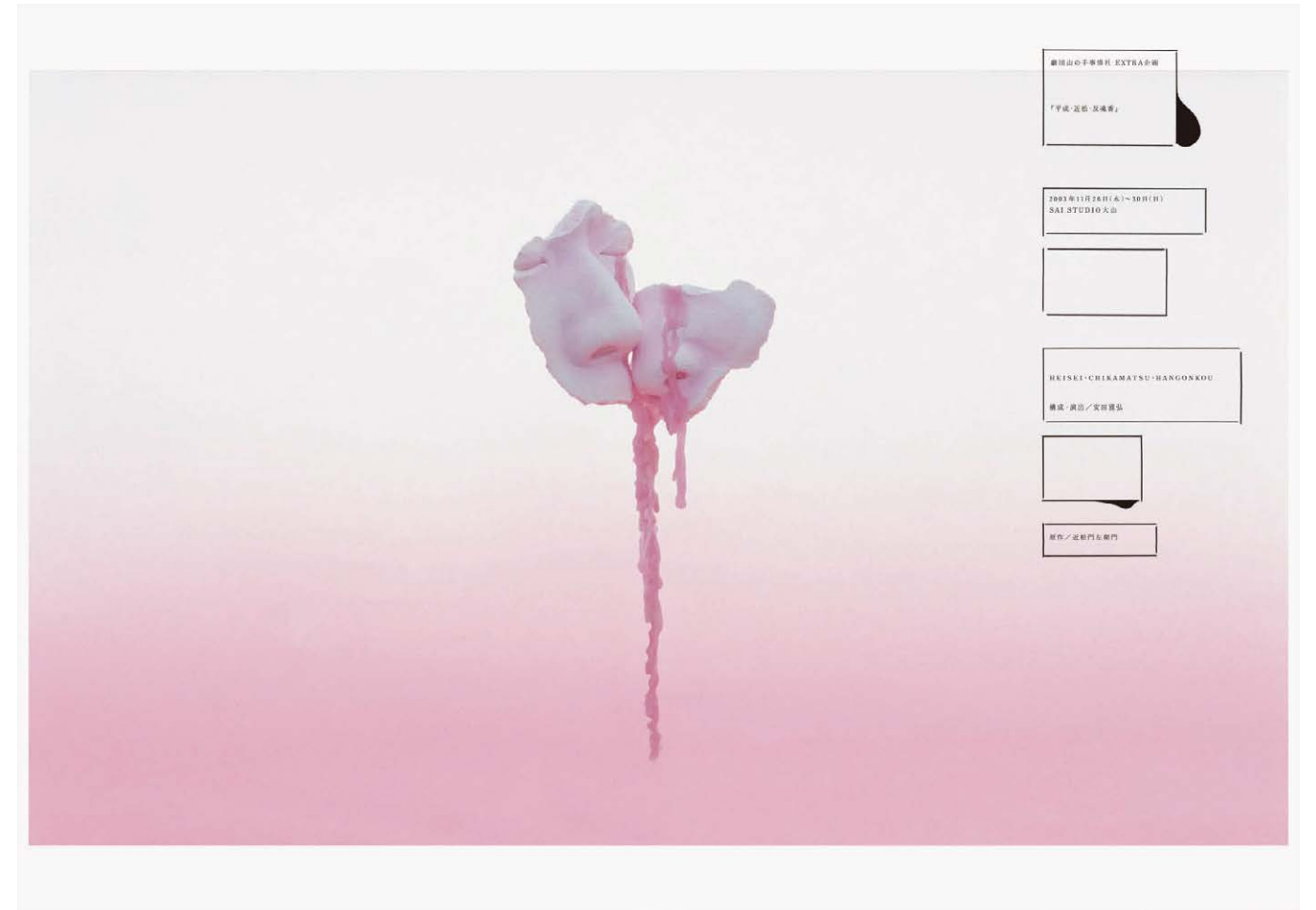
どのような紙に印刷するかで色は驚くほど変化します。グラフィックデザイナーにとって色は、その結果にほかなりません。インキの色見本帳の他に、気に入った印刷物の紙片を切って自分だけの色見本帳を持つデザイナーが多いことも頷けます。

デザインをするときに色をどのように考えたか、どのように伝えたいと思ったのか、そのためにどのような手法を用いたか——グラフィックデザイナーと色の関係は広く深く、まるで大海原のような対象ですが、ここではその一端のご紹介として、この夏に出会った約 10 の事例をお伝えします。

*オフセット印刷のプロセス 4 色だけではなく、特色はじめ様々な材料・手法・技術をグラフィックデザイナーは印刷に用いますが、紙ではないモニター上の色の世界「RGB」との差別化として、タイトルに「CMYK」を使いました。



1987 年より東京 TDC (Tokyo Type Directors Club) の活動に参加、事務局長。他にフリーランスのキュレーターとしてグラフィックデザインの展覧会やプロジェクトを国内外で多数実施する。またクリエイティブディレクターとして複数のデザインプロジェクトに携わる。日本デザインコンサルタント協会会員。



AD. デザイン＝福島 治
劇団「山の手事情社」公演ポスター『傾城反魂香』
色に「空間」や「奥行き」を感じてもらいたいという狙いから、この劇団のためのグラフィックに使用する色は、写真＝撮影スタジオのライティングによって作られている。このポスターではオブジェに直接の色づけも行われた。



AD. デザイン＝廣村正彰
LOFT ショップバッグ（新旧の比較）
企業の歴史であり財産である色＝コーポレートカラーと時代感覚をいかに関連づけるか、興味深い事例。